上矢作小学校だより

大船山

第 11 号
令和 3 年 9 月 27日

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ http://www.ena-gif.ed.jp/kamiyahagi-e/

私が考える「今、学ぶことの意義」

校 長　細江 幸次

2学期が始業してからずっと緊急事態宣言が出ている中での学校生活は、運動会をはじめとする全校的な取組が全くできません。感染者が出ていない本校、当地域においても念には念を入れての感染防止対策と、少しでも実りある学びができるように様々な工夫をしながらの毎日です。しかし、年度当初に計画されている行事が予定通りに実施できないことは、どうしても日常の活動を停滞させてしまいます。上矢作小学校では、「日常の鍛えの成果を行事で発揮する」「行事で得た自信で日常がさらに高まる」ことを目指して、「日常」と「行事」を両輪とした取組を大切にしています。現在延期されている運動会、社会見学、6年修学旅行等の行事はいずれも同様にとらえています。

そのことにもう少し付け加えて述べると、以下のようになります。

1，2年
体育

3年 理科

小中学校(義務教育)では「生きる力」の基礎・基本となっていく学力(思考力、判断力、表現力、知識・技能　等)を教科を通して身に付け、集団生活や様々な活動を通して社会の一員としてのあり方を学んでいきます。その中で挨拶や言葉遣い、礼儀作法等も体得していきます。これらの学びは貯金のようなもので、自分のものとしてたくさん貯めることができれば、その使い道は多様に広がっていきます。一気に全部使ってしまうことも、余力を残して少額にとどめておくことも貯金をした本人の意思で自由に決めることができます。逆に、少ししか貯めることができなければ、当然使い道も限られ、自分がいくら強く望んだところで手に入れることができないものが多くなります。

自分自身の将来の姿(社会に出ていく時)は、ある日突然にやってくるのではなく、今現在の自分の足元から確実に一本の線でつながっています。そう考えると、今やっているひとつひとつのことに対する見方・考え方が変わってくると思いませんか。多くの人が口にしますが、私も今この年齢になって、もう少し頑張っておけばよかったと思うことや挑戦しておけばよかったことが思いのほかたくさんあります。そして、その多くは一朝一夕でできるものではなく、日日の積み重ねによるものが大きいことも、今の自分なら簡単に理解できます。しかし、これは経験を通して理解できるのであって、経験の少ない子どもたちがこんな思いを抱くことは非常に難しいことです。だからこそ、毎日の生活の中でできるようになったこと、わかるようになったことを認め励まし、さらに次のステップに進めるように助言・サポートしながら、積み上げていけるようにしなければなりません。こう考えると、子どもたちにとっての「めあて⇒努力⇒自信」のサイクルがいかに大切かということが改めて分かってきます。

まだ、小学生にとって、将来の自分の生き方・姿はボンヤリとしたものだろうし、現在や将来に対する不安や、もしかしたら不満があるかもしれません。ただ、何もしないで不安・不満を抱えるのではなく、まず今の生活で日常的にやっていることひとつひとつの意義・意味を考え、そしてわかり、確実にやり切れる自分にしていくことが大きな備えになっていきます。そして、自分が描く将来の夢に向かっていくことになると考えています。

上矢作っ子の活躍

＊恵那発明くふう展　努力賞　　２年　松下　夕祐